

前期日程

令和七年度入学試験問題

国語（現代の国語・言語文化・論理国語・文学国語・古典探究）

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。
- 三、解答用紙は八枚です。
- 四、各解答用紙には受験番号を記入する欄がそれぞれ二箇所あります。すべて記入しなさい。
- 五、試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で
表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、
表示いたします。

(朝倉友海『ことばと世界が変わるとき』による。出題の都合上、改変している。)

注1 唾棄——唾を吐き棄てるほど、忌み嫌うこと。

注2 餓鬼の苦しみ——仏教における世界のひとつ、餓鬼道に生まれた者の苦しみ。常に、飢えと渇きに苦しむ。

問一 傍線部①～⑤の漢字は読みをひらがなで記し、カタカナは漢字に直せ。ただし、⑤に関しては、漢字一字で書くこと。

問二 波線部ア～エの「現実」のうち、その語が表している内容が、他の三つと比べて最も異なるものを一つ選び、記号で答えよ。

問三 本文中の空欄

に入る最も適当な言葉を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 逆説的な

イ 不思議な

ウ 理想的な

エ 現実と反する

問四 傍線部(1)「この世はほとんど「生き地獄」だと言いたくなるのは、このように意味がすべて剥ぎ取られたときである」とあるが、「意味がすべて剥ぎ取られ」とはどういうことか。わかりやすく説明せよ。

問五 傍線部(2)「他なるものとしての未来」とあるが、筆者はこれをどのようなものと考えているか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 過去・現在・未来という直線的な時間の中にあり、推測は可能だが、あやふやな部分も持っているもの。生きるとはどのようなことかという問いが真剣に問われる時に発見され、それに伴って未来へと向かう生命の姿も見出せるもの。

イ 自分にとっては何の意味もないとは思えないものでも、世界に存在している絶対的な意味を、私たちのもとにもたらしてくれるもの。現実はいまだ完結していないという根底的な気付きを私たちに与え、世界の見方を変えさせるもの。

ウ 生きるとはどういうことが真剣に問われ、深められるとき、私たちが相対する現実から照らし出され、見出されるもの。予想が難しいだけでなく、私たちの把握を全く超えた、私たちにはまだ知ることができないもの。

エ 私たちが存在しえないかのような状態にまで問いを深めたとき、新しい意味を到来させるもの。現実は無意味ではなく、その意味はこれから来る、または来ていなくてもこれから意味をもつと私たちに感じさせるもの。

問六 傍線部(3)「もし究極の世界以外のすべては無意味なものという位置づけになってしまふのならば、救いがない」とあるが、これはどういうことか。最も適当な説明を、次のア・エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 経験とは新たな真理形態の出現として自己と世界がともに変容していくことであるが、その変容が、たんに苦しいだけの「生き地獄」を回避するために行われるものになってしまうのならば、救いがないということ。

イ いま新たに開示された真実は、私の変化とともににはじめてもたらされただけであり、以前から自分以外の他人には見えていた真実であつて、自分の見方が間違つていただけということになるのならば、救いがないということ。

ウ 経験を通して新たな意味が分かれば、いまだ開示されていない意味をさらなる経験を積むことで分かるようになると思われるようになるが、どんなに経験を積んでも究極の真相にはたどり着けないのならば、救いがないということ。

エ 意味は自己の変容とともにやってくるが、究極の真相が開示されるまでの経験が、理想が破れた時に足元に広がる死体の山と同じように、無意味なものとして捨て去るべきものになってしまうのならば、救いがないということ。

問七 傍線部(4)「意味の変化が重層性を作り上げるところにこそ、真の世界の姿がある」とあるが、これはどういうことか。本文全体を踏まえて説明せよ。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

(仲谷実織「たこの孵化」による。)

問一 傍線部①～⑤の漢字は読みをひらがなで記し、カタカナは漢字に直せ。

問二 傍線部(1)「駐車場に残していく母の顔は、輪郭がぼやけてよく見えなかった」とあるが、このときの「章」の母に対する心情として最も適当な説明を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 母と目が合ったにも関わらず何も言われなかったので、自分は取り返しのつかないことをしてしまったのではないかと申し訳なく思っている。

イ 男の声があまりにも重い声で恐ろしかったので、思わず母に助けを求めたいような気持ちになっている。

ウ 自分は男の車に居心地の悪さを感じたが、母は自分が男に連れられていくことをどのように感じているのか、気になっている。

エ 朝から妙に落ち着かない母を見てきたが、落ち着いた様子の自分を見せれば安心させられると思っている。

オ 男の笑顔が親しみを覚えるものではなかったので、自分を預けることにした母を恨むような気持ちになっている。

問三 傍線部(2)「まるで同僚のミスを庇うかのような口調」とあるが、なぜそうした口調になるのか。わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部(3)「母が昨晚になつて唐突に語り出した過去」とはどのようなものか。四〇字以内で簡潔に説明せよ。

問五 傍線部(4)「でも、違う」とあるが、何がどう違うのか。八〇字程度で説明せよ。

問六 傍線部(5)「なんだか知らない場所に放たれた家猫のような心もとなさ」とはどのような心情か。比喻が表しているものを明確にしなが、具体的に説明せよ。

問七 波線部A・Bについて、AとBでは「章」の心情がどのように変化しているか、説明せよ。

三、次の文章は安嘉門院四条(阿仏尼)による日記『うたたね』の一節である。作者の女性はある貴族に恋をするが、順調には行かず思い悩む。本文はその恋に思い悩んでいた当時を回想したものである。これを読んで、後の問いに答えよ。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この箇所は著作権の
関係で表示できません。
掲載の許諾が得られまし
たら、表示いたします。

（本文は『新日本古典文学大系』〈岩波書店〉により、一部改変を加えた。）

注1 絶えぬ夢の心地——（作者の）未だ続いている（恋の）夢の心地

注2 障りがちなる葦分け——葦の茂みをかき分け進むように障害の多いこと

注3 降りみ降らずみ——降ったり降らなかったり

注4 二葉——幼い時

注5 見さす——見るのを途中でやめる

注6 水茎——筆

問一 傍線部①「ありしに変はるけぢめも見えぬ」、④「世の心細さ」、⑤「あくがるる心催すにや」を、現代語訳せよ。なお、①

「ありし」、「けぢめ」、④「世」、「心細さ」、⑤「催す」は他の語に変えて訳すこと。

問二 傍線部②「袖のいとまなき心地」とあるが、誰のどのような様子か、説明せよ。

問三 傍線部③「今はかくにこそと思ひなりぬる」とあるが、作者はどのような思いになったのか。その説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 恋人と会えない日々が重なり、恋人との縁を諦めかけている。

イ 恋人から別れを告げられたため、不遇な自分の運命を嘆いている。

ウ 恋人の足が遠ざかる中で、自分の魅力に自信を失いかけている。

エ 恋人との別れを予感して、今後の幸せに不安を抱いている。

問四 傍線部⑥「太秦に詣でてむと」、⑪「つくづくと見るにも」を例にならって文法的に説明せよ。（例は一行だが、二行で書いてもよい）

例 ただ（副詞）涙（名詞）のみ（副助詞）むせ返り（四段動詞・連用形）たる（完了の助動詞・連体形）

問五 傍線部⑦「聞え」、⑧「給へ」の敬語の種類を特定し、さらに誰から誰に対する敬意を表すのかを答えよ。

問六 傍線部⑨「とみにも立たれず」となったのはなぜか。本文に即して説明せよ。

問七 傍線部 a・e の「れ」の中から、自発用法と考えられる助動詞を全て選び、記号で答えよ。

問八 傍線部⑩「御文」について描写する箇所を五〇字以内で本文中から抜き出し、最初と最後の五文字（句読点は含まない）を答えよ。

問九 傍線部⑫「人わろき心の程や」は「みっともない感情だなあ」と訳することができる。作者はどのような経緯でこのような心情に至ったのか。A「帰りてもいと苦しければ」以降の本文から、その経緯について読み取り、「く」という経緯」に続くように七〇字以内で説明せよ。

問十 『うたたね』と同じ作者による作品を一つ答えよ。

四、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答は現代かなづかいでもよい。なお設問の都合で訓点を省略した箇所がある。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

注 ○小臣——君主の近くに仕える身分の低い家臣。 ○佞——媚^こびへつらい。

○不遑^た於夙夜——朝から晩まで止^やむことがない。 ○自効——自分の務めに力を尽くす。

○沽——売る。 ○酒酸而不售——酒の発酵が進みすぎて酸っぱくなるほど時間^たが経^たっても売れない。

○有道——道德が身に備わっている人。 ○稷・契——后^{きう}稷^{しよく}と契^{せつ}。古代の伝説的な賢臣。

問一 傍線部①「莫知愛己者之不足愛也」は、「己を愛する者の愛するに足らざるを知る莫きなり」と書き下せる。これに返り点を施せ。

問二 傍線部②「忘違己之益己」の二つの「己」が指し示すものとして、最も適当な二字の漢字を、本文中より抜き出して答えよ。

問三 傍線部③「見其主則騰踊而不能自禁」を、動作の主語を補った上で、平易な現代語に訳せ。

問四 傍線部④「甚」、⑤「何也」、⑥「安」、⑧「悲夫」、⑨「不可不察也」の読みを、送りがなも含めてひらがなで示せ。但し④は音読みしないこと。

問五 本文中の比喩についての説明として、最も適当なものを次のア～カから一つ選び、記号で答えよ。

ア 主人の害になるものを見抜き、徹底的に追い払おうとするあまり、逆に自分が主人の害になることから、犬を「小臣」のたとえにしている。

イ 主人を愛する心はあっても、酒の善し悪しを判断できるほどの知恵はないことから、犬を「小臣」のたとえにしている。

ウ 主人を愛する心はあっても、適切な行動ができずに、かえって主人に不利益を与えることから、犬を「小臣」のたとえにしている。

エ 全ての行動が主人の利益になることはなくても、ひたすらに主人を愛して忠誠を尽くすことから、犬を「良賢」のたとえにしている。

オ 時には主人を不愉快に感じさせることがあっても、長い目で見れば主人の利益になることから、犬を「良賢」のたとえにしている。

カ 主人に気に入られようと近づく者のうち、主人の害になる者を見抜いて追い払うことから、犬を「良賢」のたとえにしている。

問六 傍線部⑦「愛小臣以喪良賢也」について、筆者はどうしてそうなると考えているのか。六〇字程度で説明せよ。